

よろしくお願ひします

内科部長 関根 正明



本年4月より着任しました関根と申します。

私は昭和53年に大学を卒業しそのまま母校の内科に残り、循環器医として研修を始めました。いくつかの病院をめぐり、大学の人事で最後に勤務したのが、今はなき「都職」清瀬病院でした。昭和63年の10月からですので、昭和が終わり、東西冷戦が終結に向かう頃でした。都職には10年以上おりましたので、竹丘病院のこともその時から存じ上げておりました。

「都職」清瀬病院の閉院後は、ご縁があって都立松沢病院の内科に勤務することになりました。松沢病院では、都内の単科精神病院に入院中の患者さんに合併して起きる内科的な身体疾患（誤嚥性肺炎・麻痺性腸閉塞など）の治療を担当しておりました。患者さんを一時お預かりして治療し、元の病院にお戻しするのがおもな仕事でした。そんなことをやっている間に15年が経ち、そろそろ若い優秀な医師が育ってきました。そこで、私のような「老人科」の医師には、それに合った仕事があると考え、当院にお世話になることになりました。

仕事の場所が変わると、専門用語で恐縮ですが、今までは出来高払いの保険診療であった仕事の土台が、診療区分に基づいた療養型の保険診療に変わったこととなります。私のような療養型医療初心者にとってはわからないことばかりで、「初心者」になった気持ちで努力中です。

ただこのような診療に身をおいてみると、日本の医療はこの療養型医療がその土台となって運営されているのだと改めて感じられます。竹丘病院の仕事は、今までの経験とはだいぶ違っていますが、大変やりがいがありそうだと思います。

療養型医療に努力する竹丘病院の雰囲気には「うま」が合いそうです。気力体力の続く間は、お手伝いをさせていただきたいと考えております。